

再エネ「地中熱」の 利用に理解深める

八ヶ岳自給圏をつくる会 原で講演会

原村などの住民有志でつくる「八ヶ岳自給圏をつくる会」は4日、第13回講演会「地中熱を知ろう」を同村中央公民館で開いた。オンラインと合わせて約60人が参加。講演を通して、再生可能エネルギーである地中熱の利用に理解を深めた。

講演は、NPO法人地中熱利用促進協会理事長の笹田政克さんが「SDGs時代の地中熱利用」と題し、地中熱の現状や普及の課題、農業での実践例などを紹介。諏訪地方

で住宅への地中熱利用を行っているダイワテック（岡谷市）の和田保守社長が「一般住宅への再生可能エネルギー『地中熱』の利用」と題して話した。

笹田さんは「地下10メートルほどの深さの地温は夏も冬もほぼ同じで、その地域の年間平均気温とだいたい同じ」とし、「地中の温度はほぼ一定で、夏や冬の外気温と差があることから、この外気との温度差を活用するのが地中熱利用」と説明。ヒートポンプシステ

ム、熱伝導、空気循環などの5通りの利用方法を解説した。

地中熱利用は建物の空調や給湯のほか農業での利用も増えているとし、ハウスイチゴやハウスミカン、シイタケ栽培工場などの実例を紹介。SDGsと脱炭素の目標達成のために地中熱利用は有効であり「いろいろな取り組みをしてみたら」と呼び掛けていた。

（宮沢知史）

地中熱利用に理解を深めた講演会

